

天然ワカメ，ヒジキの分布・現存量調査 (資源管理型漁業推進事業)

多田篤司

近年，消費者の安全・安心志向により，養殖・天然を問わず国産のワカメ，ヒジキの需要が高まっており，増産が望まれている。徳島県沿岸では鳴門市から阿南市にかけての北中部沿岸に天然ワカメ，ヒジキが自生しているが，これらは水産資源としてほとんど利用されていない。

本事業は，未利用の天然海藻資源の有効利用を図るため，徳島県内に自生する有用海藻類の分布及び現存量を明らかにすることを目的とする。令和元年度は，鳴門市北灘町沿岸の天然ワカメ及びヒジキについて調査した。なお，本事業は，昨年度まで実施されていた「とくしまの海藻増産事業」の後継として，内容を引き継いで実施した。

材料と方法

過去の藻場調査等の知見と現地漁業関係者への聞き取りから，ワカメ，ヒジキが自生し，かつ漁場としてあまり利用されていないと考えられる場所を選定した(図1)。ワカメ及びヒジキの調査として，鳴門市北灘町大須沖から同町榎木漁港の波止までの直線距離で約10.34kmの区間を，船上からの目視により分布の概況を確認した。次に対象種の平均的な生育がみられる地点で，シュノーケリング調査により対象種の生育水深帯，生育被度，生育帯の幅を測定した後，枠取りを行った。枠取りは50cm²の方形枠を用い，群落内の3ヶ所で枠内の対象種を採集した。現存量は，単位面積当たりの平均湿重量から，生育面積に引き伸ばすことにより推定した。

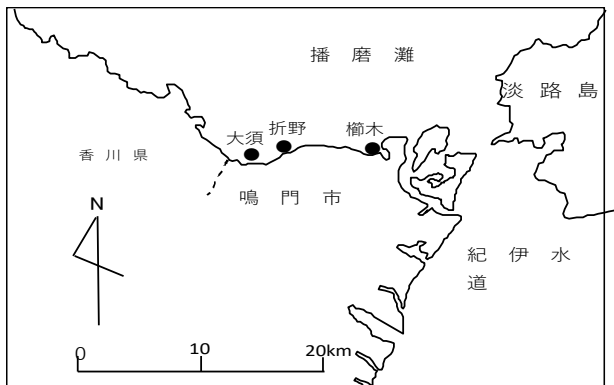


図1. 調査地点及びサンプル採集地点

表1. 令和元年度の天然ワカメ及びヒジキの調査結果

調査地	対象種	調査日	生育水深 (m)	生育被度 (%)	推定生育面積 (m ²)	湿重量 (kg/m ²)	推定現存量 (t)	備考 (現存量推定範囲)
鳴門市北灘町折野	ワカメ	令和2年3月25日	0.5-6.2	50-100	31,020	5.06	157	北灘町沿岸
鳴門市北灘町折野	ヒジキ	令和1年7月2日	-	20-80	558	2.4	1.3	離岸堤8基

結果と考察

天然ワカメとヒジキの調査結果を表1に示した。

天然ワカメ

分布概況は平成30年度と大きな差は認められなかった(写真1)。現存量は北灘町沿岸において157トンと推定された。調査日時時点で，末枯れが進んでいたり，藻体長の小さい個体が多く確認された。鳴門地区の海水温は平年より2℃前後高く推移しており，生理的ダメージを受け生長不良に陥ったと考えられる。



写真1. 鳴門市折野地先離岸堤のワカメ群落(令和2年3月)

天然ヒジキ

被度は，平成30年度と比べ減少した(写真2)。現存量は折野離岸堤8基あたり1.3トンと推定された。調査日時時点で流れ藻となったヒジキが調査地周辺や沖合の曳き網で多く確認され，何らかの原因で平年より早期に流れ藻となり現存量が低下した可能性が考えられる。



写真2. 鳴門市折野地先離岸堤のヒジキ群落(令和1年7月)